

匝瑳市総合計画策定にかかる 団体懇談会分科会報告書

平成18年11月26日(日)
市民ふれあいセンター

次 第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 市政概要説明(助役)
- 4 その他
- 5 全体会閉会
- 6 分科会
- 7 閉 会

分科会報告目次

第1分科会	1
第2分科会	4
第3分科会	9
第4分科会	16

平成18年12月

匝 瑳 市

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第1分科会 (健康、福祉、医療)	会場	ふれあいセンター会議室東
協議日時	平成18年11月26日 14:00 ~ 16:00		
出席者	守 正英 (医師会長)	鈴木 格(歯科医師会)	伊知地宮子 (ボラ協)
	木野則男(社会福祉協議会)	鈴木八郎(民生児童協議会)	鈴木克己 (薬剤師会)
	林 正夫 (老人クラブ)	増田知子(保健推進員会)	江波戸いし (母子寡婦)
	日色昭浩 (身障者福祉会)	伊野知枝美(手をつなぐ会)	遠藤(どんぐりの会)
	計12名		
市職員	江波戸辰夫市長	石橋春雄市民課長	桑田政雄健康管理課長
	渡邊克浩福祉課長	柏熊明典高齢者支援課長	飯島平一郎病院事務局長
	大宮秀男市民室長	及川孝保健福祉室長	
	増田重信企画課長(司会)	市原繁副主幹 (事務局)	計10名
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から市職員、団体代表者の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 懇談</p> <p>○健康・体力づくりの推進について</p> <p>保健推進員会：今は、食育を主な課題として活動している。朝ごはんを食べない子供が多い。親への教育が必要。早寝、早起き、朝ごはんを伝えたい。</p> <p>老人クラブ：グラウンドゴルフが盛ん。皆、健康で楽しくやっている。体力測定の研修会を今後やりたい。</p> <p>医師会：アンケートで暮らしにくいまちとなっている。健康意識の向上のための施策や体力づくりに参加する機会を提供してもらいたい。しかも継続的な事業を実施してもらいたい。</p> <p>歯科医師会：食べることは生活の基本。匝瑳市はプレママ教室、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診、園児健診、成人病健診と生まれてから成人までの健診を行っている。評価できる。成人の8割が歯周病、市としても周知してもらいたい。常勤の歯科衛生士の雇用をお願いしたい。</p> <p>○児童福祉(子育て支援)について</p> <p>ボラ協：働いているお母さんが、子供が病気になったとき、預かってくれる施設が必要(たとえば病院)。今は、子供を地域で育てるという考えがない。子供のインフルエンザ予防接種に対して助成してもらいたい。</p> <p>身障福祉会：少子化はまちの将来を左右する。高齢化は自然現象でも、少子化は政策で解消できる。子育ての悩みを相談できる場所が欲し</p>		

い。

どんぐりの会：子供を遊ばせる場所がない。青少年ホームを中心に活動しているが、ホームは子供を遊ばせる場所ではない。少子化は、お金の問題ではない。心の問題も大きい。お母さんたちの悩みを聞いてくれる場所も人もない。

手をつなぐ：作業所でも父兄の集まりがあるが、集まりが悪くお母さんたちが、どのような悩みを持っているのかわからない。野菜にもタンポポの会という会があるのでこの会議に呼んで欲しかった。もっとお母さんたちの悩みを相談できる機会、場所をつくってもらいたい。

医師会：本当に周りのものが子供に何かして良いのか悪いのか、判断が難しい世の中となっている。子供はやはり親が育てることが必要。余裕をもって子育てできる環境づくりが必要。

歯科医師会：昔は地域で子育てする環境があった。コミュニティの力が落ちている。核家族化により、孫の面倒を見るという役割が果たせなくなった。お年寄りのパワーを活用できないか。

どんぐりの会：地域で育ててくれる環境はない。

身障者福祉会：保育園に入るまでの子育てが大変。24時間子育てを行うことによる母親の負担は大きい。行政で入園前の子育てについて支援できないか。

ボラ協：保育所や学童保育の保育時間に親の仕事は終わるとは限らない。やむなく仕事を変えることもある。保育園や学童保育の保育時間の延長を考えてもらいたい。

○高齢者、障害者福祉について

身障者福祉会：青森県のある町でアンケートをやったら独居老人の6割がうつ状態となっている。地区の行事などに参加できる人はいいが、家からなかなかでたがらない、引きこもり状態の老人も多い。こういった人たちの対策をしてほしい。

母子寡婦：ボランティア組織で相談できる場を作ったらよいのではないか。相談には年寄りが関わったら良いのではないか。子育ても大事だが家庭での躰(しつけ)も大事

民生児童：介護の世話になったとしても住み慣れたところにいたい。泊まることもできる交流の場(事業所)があればいい。痴呆や障害者のための小規模の事業所がほしい。

社会福祉協議会：制度や仕組みが厳密になっている。仕組みが厳密になったことによりサービスの対象者からはずされる人がいる。こうい

った人たちを地域で支援するような仕組みが必要。

薬剤師会：高齢者のため薬を家まで届けるサービスをしている。

FAXで処方箋を受け付けるが、FAX1件当たり80円の負担をしている。買い物も頼まれるときもある。

医師会：在宅ケアフォーラムの開催や24時間の老人のサポートも実施している。障害者の制度も変わってきている。いろいろな情報を共有できる場を作ってもらいたい。

養護学校卒業後の支援ができていないのではないかな。

○地域特性を生かした総合的な取り組みについて

ボラ協：ボラ協で講習会や講演会を開催している。その後、継続して活動に参加してもらえない。子供のときから参加することが必要。みんなが安心して暮らせる安全なまちが匝瑳市の基本。

医師会：継続してこのような会議を開催することが必要。

歯科医師会：この地域は、古い地域で伝統行事も多い。こういった伝統行事を活性化することで地域の付き合いが復活することができるのではないかな。広報でも総花的ではなく、地域の出来事を継続して取材してもらいたい。防災でもコミュニティがうまくいけば隣どうしで助け合うこともできる。

○その他のまちづくりへの提案

医師会：八日市場駅のトイレ、特に障害者用トイレが汚くなった。道路の路側帯に砂がたまっている。道路環境を整えることも大事。

身障福祉会：まちをあげて皆でやれるようなものが欲しい。

山武市は、まちぐるみで手巻き寿司作りを進めている。

薬剤師会：学校関係の検査も実施しているが、院外処方を扱うようになって忙しくなり、学校関係の検査が大変になった。

手をつなぐ：土曜日にも活動できる作業所がほしい。

どんぐりの会：いろいろな意見を拝聴してためになった。今後もこの会議を継続して欲しい。オムツを交換できるトイレが欲しい。

気軽に相談に行ける場所が欲しい。匝瑳小に子供が通っているが、小規模校なりの良さがあるので統廃合は反対である。

ボラ協：みんなで協力し合っていくことが必要。各団体が連携を図るためにもこのような会議を継続して開催してくれることを希望する。

以上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第2分科会（産業・経済）	会場	ふれあいセンター視聴覚室
協議日時	平成18年11月26日 13:58 ~ 16:03		
出席者	片岡 守（農委会長）	梅原一郎(八日市場商工会長)	小川昌勝(商業協理事長)
	佐藤悟（観光協会長）	椎名輝子（八日市場商工会女性部長）	平山安幸(JA 常務理事)
	金杉芳胤(JA 青年部)	宇井野照夫(海匠漁協副組合長)	萩原幸雄（植木組合）
	椎名千恵子(生活研究会長)	大木秀子(ふるさと交流協会長)	野口俊男(みどり平連協会長)
	石崎勤(シルバー人材会長)	小川泰廣(大利根土改理事長)	菅谷健一(干潟土改理事長)
	岩瀬藤作(北総東部土改)	布施保(借当川沿岸土改理事長)	大木忠良(両総土改管委)
	布施忠則(JA 指導課長)		計 19名
市職員	伊藤正勝助役	伊知地良洋税務課長	加藤三好商工労政室長
	鈴木康伸農政班統括	布施勝敏農委事務局長	熱田一稔産業室長
	宇野健一財政課長(司会)	塚本貢市主査（事務局）	計 8名
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から市職員、団体代表者の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 懇談</p> <p>○農林水産漁業について</p> <p>ふるさと交流：来年の3月で5周年を迎える。都市と農村交流ターミナルとして活動中で、野栄地区の人々ともより一層連携していきたい。</p> <p>ふれあいパークは事業が好調で、市内で一番元気かと思う。最高齢の会員は78歳で、33歳から約140名の会員がいる。生産物は、当初より品質が向上している。残念なことは、野栄地区の会員は、現在3名と少ない。「交流で元気になろう」を合言葉にしている。農業を少しでも若い人や退職を迎える団塊の世代にやってみようと思ってもらえるように取り組んでいる。</p> <p>植木組合：中国がオリンピックの特需で、マキの枝物が順調に売れている。輸送のコンテナの制約で、高さ・幅とも2.4メートル以内のものだが、国内では流通しない小柄な品物で、組合では現在、7,8社と取引している。</p> <p>海匠漁協：飯岡漁港に約70隻の漁船を有し、銚子漁協の次に大きな組合。5点について要望したい。①漁港の整備—国・県等の協力で、飯岡漁港の整備が進められているが、水深6メートルまで東堤防を延長してもらいたい。第1種から第2種への格上げ。②栽培漁業の推進—消費者に安全・安心な魚介類を安定的に提供するため、県の主体で漁礁整備と種苗放流を一層推進してもらいたい。③漁業安定対策—輸入の増大など環境は厳しい。船の建造費に対する利子補給や農</p>		

林漁業金融公庫融資への利子補給などを市として充実してほしい。
④付加価値を高める一ブランド化の推進 ⑤新市就業者の支援—
後継者育成、外国人研修制度の導入など、乗組員の確保対策に取り組
んでほしい。

シルバー人材：現在303名の会員で、60歳以上の高齢者の就業の場の提
供事業を展開している。生きがい対策として、また、地域の活性化
のお手伝いとして、その活用についてご理解をいただきたい。

こうした懇談を通じて、市民全体に潤うような仕組み、特産物を集
約して市民全体に及ぶような仕組みを構築できないか。

産業振興課：例えば、ふれあいパーク八日市場もそうですが、そこだけ潤う
のではなく、都市との交流等を通じて広く波及するように取り組んで
いる。また、ブランド化は、本年度、県の補助事業でブランド化、
加工品の開発などの事業に取り組んでいる。そうした事業を通じて全
体に波及するように取り組んでいきたい。

J A：そうさ営農センターがこの地域の担当となる。

J Aちばみどり全体で販売高は、野菜200億円、米24億円、畜産
41億円となっている。匝瑳地区は、米が主体でネギ、トマト、ミ
ニトマトと小規模な施設園芸である。旭地域は大規模な施設園芸が
ある。また、ひかりネギは新規就農者も多く作付けしている。米で
は、そうさ自主開発研究会は100人ほどの会員になっている。今月
に、そうさの米ブランド化研究会が発足した。減農薬、有機栽培の
米作りを進めたい。高齢化の進行も深刻で、農薬の空散を再開して
ほしいとの要望はあるが、7成分分析の関係で難しい。米と畜産の
盛んな地域は後継者不足が深刻で、その対策も必要である。

J A青年部：農業経営の視察や研修、親睦活動をしているが、後継者が少な
く、もっと増やしたい。

大利根土改：用水の安定供給に努めており、本年度は計画通り事業を実施で
きた。環境整備の問題については、引き続き、行政の支援をお願い
したい。

両総土改：県営のかんがい排水事業を実施していて、順調に事業が進んでい
る。予定より早く、来年度に完了する見込み。市の協力に感謝する。
また、飯倉と横芝光町南条にまたがる排水路が滞留して困ってい
る。地元から排水路整備の要望が高い。また、飯倉駅北側の開発地
の排水については、大布川方面に流せないか。検討してほしい。

生活研究会：我が家の食卓からということで、食の安全・安心、米や牛乳の
消費拡大に取り組んでいる。各種研修会などへ参加するほか、減塩味

増作りもしている。また、ふれあいパークに会員として参加したり、従事者として参加したりしている。元気に活動している。そうした活動を通じて地域の活性化に貢献したい。

借当川沿岸土改：新市建設計画は、全体のまちづくりについて記載がある。

新たな総合計画を策定した後も、平成 26 年まで存続するのか。

司会：地方自治法によって基本構想はつくらなければならない。建設計画は合併特例法を根拠としている。

事務局：総合計画に平行して 26 年まで存続する。建設計画は尊重する。

干潟土改：土地基盤整備は再編を余儀なくされた。40 億円以上の事業は評価を実施するか、事業を分割するか迫られ、3 事業に分割する方針とした。平成 20 年の事業着手へ努力したい。

米が匝瑳市で主となっているのは、基盤整備の問題がある。米の生産は過剰であるが、価格の問題で他のものを作りたくても、水田の汎用化の整備が進まなければつukれない。どのように匝瑳市の基盤を改善整備するか、この機会に検討を進めていただきたい。

借当川沿岸土改：建設計画やマスタープランに沿って、計画のたたき台を示してもらいたい。ここで要望を言ってもいいのか。

北総東部土改：本日は、さまざまな意見や要望を出してよいのではないかと。営農指導では、JA と市へ常にお願ひしていた。しかし、あまり行われぬ。後継者の状況は、自宅周囲を見ても、ほとんど高齢者ばかりで 10 年も持たないのではないかと。積極的に取組んでほしい。栗山川の改修は実施中だが、完成には、まだ時間が掛かる。改修が終わらぬと北部農地の排水は良くなる。進めてほしい。横芝光町とはこうした繋がりも多く、市町合併を真剣に検討してほしい。また、市に負担いただいている排水負担金についても、農家は減少の一途であり、見直しを検討してほしい。

農業委員会：改良区間の排水は、地形の問題等があり、個別の問題は土地改良区の会議にお願ひして、農業全体の意見を出し合いたい。

北総東部土改：土地改良区間の問題ではなく、市への要望である。

借当川沿岸土改：要望などを言ってもよいのか。

司会：匝瑳市の将来の目標を立てて、それに向かって、実現のための道筋などを伺いたいというのが、本日の会議の狙い。

干潟土改：基盤整備の問題は土地改良区、農地の問題は農業委員会、生産や後継者の問題は JA や市が中心となるが、今後の地域農業をどのように目指すかを協議する場として有意義である。

ふるさと交流：この分科会は人数も多いが、まさしく本質的に匝瑳市を担う

方たちが集まっている、そのように認識している。少しずつ意見を出し合って、よりよい市の方向定めができるのではないか。

北総東部土改：農地利用については、基盤の整備と優良な農地の保全を目指して、農振計画の見直しと併せて取組みたい。ふれあいパークは立地条件が良かった。事業の運営も元気がある。

○商工業・観光の振興について

商工会：来月 8 日に八日市場商工会と野栄商工会が合併の調印をする。来年 4 月から匝瑳商工会が発足する。活動の充実を図りたい。

大型店の進出により、既存商店街は一層厳しい。駐車場は 6 か所設置され、土日・夜間の銀行の協力もいただいている。J T 跡地の問題では、検討委員会で検討した。施設整備では、収益事業の場合、合併特例債を充てられないということなので、当初案を修正しなければならない。今は、J R 駅の工事関係で後 1 年半ほど使用しているので、その間に検討を進めなければならない。野栄地区の循環バスでは、栢田循環が廃止され市内循環となって本数が減ったという人がいた。そうした環境等も整備しながら、魅力づくりに取組みたい。消費者の視点での御意見を伺いたい。

商業協：共通商品券の事業を行っている。プレミアム商品券や年末ジャンボ宝くじ事業などを通じて、活性化の方法がないか検討している。

人口が増加すれば活気がでる。先日は、俳優の地井武雄さんが本市の観光大使になったと報道されていた。一部の商店街ということではなくて、さまざまなことに取組んで、全体がよくなるようにならないかと考えている。優良企業を誘致して、雇用の場を確保したいし、観光開発に取組んで、地域の産業を元気にしたい。

商工会女性部：男女共同参画なくして発展はない。男女共同参画社会の実現を最重点に取組んでもらいたい。商店は、女性が中心である。にもかかわらず、男性の補佐的役割しか認められず、活躍する場が確保されない。女性の活躍を支援することによって、商店経営などの経済の発展に繋がる。女性のプロジェクトを作って、その意見を取り入れていただくのも、まちの発展に繋がるのではないか。

ふるさと交流：来年春に、ディステーション・キャンペーンがあるので、里山ハイキングの開催に合わせて「菜花摘み」の準備をした。ひとつのイベントで成果がすぐに出ることはないと思うが、さまざまな地域の良いところを発見しながら PR するように努めている。それが県の推進している千葉の観光の姿ではないか。

みどり平連協：現在 29 社が進出している。二十数年前に進出したのは、成

田空港に近いから。良い人材を確保したいが、大卒者が来てくれない。交通の便が悪いからではないか。道路の整備やJRの複線化や増便に取り組んでほしい。

北総東部土改：昭和4,50年代は相当、総武本線の複線化に力を入れた。けれど実現しなかった。子どもを産めといっても、今は、あまり産まない。人口を増やす努力は、まずは企業誘致かもしれない。

農業委員会：飯高小学校に地区の銘木という写真があったが、どこにあるのか説明がなく、行けなかった。匝瑳市でも、日本一の植木のまちなので、そうした銘木の情報などを流してもらいたい。

○地域特性を生かした総合的な取り組み、その他のまちづくりについて

シルバー人材：団塊の世代が退職を迎え、地域活動に戻ってくる。さまざまな能力を持っているので、地域活性化の活動には頼りになる。ぜひとも、シルバー人材センターを含めて、活用願いたい。

北総東部土改：籠部田農免道路の市役所前市道との連絡について、農面道路整備の際の、約束事であった。早期の事業化を望む。

商工会女性部：近所の人に聞かれた。車の運転ができない人が、庭の樹木の枝等を伐採したごみを、どのようにしたら良いのかと。

シルバー人材：実は、当センターでも、そのような運搬を承っております。ご活用ください。

植木組合：植木組合は市役所の隣で、市場の経営等をしている。植木塾には、県下、一般の人が52人受講している。植木のまちをPRしている。植木の振興のために、当組合とは別の任意団体の匝瑳市の植木組合を立ち上げる準備をしている。新会員は100名を超える。1月30日に設立総会の運びになっている。植木振興、後継者育成の面で、新しい取り組みをしていきたい。

シルバー人材：市役所の駐車場が狭い。ドームやふれあいセンターの利用を含めて、拡張してほしい。

ふるさと交流：新しい取り組みは時間が掛かる。ふれあいパークも6年掛かっている。話し合いを継続して、匝瑳市にこれはいいだろうというものをつくりあげていきたいと思う。

みどり平連協：まちが暗い。街灯が少なく、商店街も暗い。人の性格まで暗く見えてしまう。街灯だけでも増やしてほしい。

北総東部土改：成田方面から来ると、匝瑳市に入ったとたん、暗くなり、何も無い。広域農道は、交通量も多く、県道昇格してほしい。広域農道は交通安全対策が遅れているのではないかと。

以上

団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第3分科会（生活環境・都市建設）	会場	ふれあいセンター会議室東
協議日時	平成18年11月26日（日）14:00 ～ 16:00		
出席者	飯島正義（区長会長）	大西富士夫(防犯協会)	藤井嘉徳（消防団）
	青木利憲（青年会議所）	鈴木英人（青年会議所）	須合英猶（不法投棄監視員）
	玉澤一男（建築連合組合）	川口勇治（桜のオーナー）	片岡 工（市民フォーラム21）
	計 9名		
市職員	野口晴夫建設課長	古作和英環境生活課長	鎌形信雄都市整備課長
	鈴木日出男総合支所長	實川豊治議会事務局長	大木公男地域整備室長
	那須章典総務課長(司会)	菊間和彦主査補(事務局)	計 8人
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から市職員、団体代表者の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 懇談</p> <p>○匝瑳市の生活環境等の評価について</p> <p>消防団：合併し、消防団組織が大きくなったが、それに見合う消防設備がまだ整備されていない状況である。今後、事務局と協議しながら徐々に市域に対応した消防環境の整備を行っていききたい。</p> <p>また、一人ひとりの消防に対する意識高揚を図っていききたい。消防団活動についてお気づきの点があったらどんどん言ってほしい。できる限り市民の声に対応していききたい。</p> <p>防犯協会：体制がないところでは活動ができない。合併して組織が拡大したが、体制ができてない。匝瑳市としての組織体制になるまで1～2年はかかるだろうと思う。</p> <p>また、現在は、どのようにして犯罪抑止していくか考えているところである。</p> <p>区長会：市ではお金がないから難しいだろうと思われるが、排水整備や道路整備はなるべく進めていただきたい。</p> <p>不法投棄監視員連会：ごみの問題が大きい。大量に出る。それは市民のモラルがなくなってきているためではないか。ポイ捨てなど、どのように処理していくか市で考えていただきたい。見つけた人が処理するというのは無理や限界がある。</p> <p>建築連合組合：近年、建築工事関係の仕事が少ない。市の仕事をなんとか少しでも回していただきたい。</p> <p>住まいが亀崎にあるが、亀崎では大雨が降ると排水がよく流れず逆流してしまう。もっと排水路を広くするか又は深くしていただきたい。</p>		

また、住宅がある程度まとまった地区でないと、なかなか生ゴミの回収をしてくれない。

天神山公園桜のオーナー制度実行委：天神山公園においてボランティア清掃等を年間3回程度行っている。公園付近には人家が少ないから花などが盗まれてしまう。

また、桜の本数もまだまだ少ないのもっと植樹したほうがよいと思う。

ごみ問題については、工業団地の進入路沿いの排水路にごみが目立っている。空き缶からおむつ類まで捨てられている。市域内の一番の問題はごみ問題ではないか。みどり平工業団地の周辺は特に多い。工業団地内の従業員が捨てているとは特定できないが、各社において従業員に「ごみは捨てるな」と徹底していただきたい。

ごみは草がない所には捨てられない。生い茂っていると捨てられるものである。一番多いごみはおむつ。燃えないから困っている。毎年川刈りをするがごみの量がとても多い。

市民フォーラム21：市役所北側の土地を活用しての事業計画があるようだが、運動公園は近隣のどこのまちにもある。天神山公園はあるが運動には使えないと思う。旭市にあるような総合運動公園みたいな公園があればいいなと思う。

青年会議所（鈴木氏）：下水道整備が遅れていると思う。ある企業も匝瑳市の土地は気に入ったというが、排水ができていない。会社の負担で引かなければならない。そういう整備ができれば企業に来ていただける。整備して来て頂く。それで働く場ができればよいと思う。

青年会議所（青木氏）：2ヶ月ほど前、匝瑳警察署の生活安全課長を講師に迎え、講義していただいた。課長の話によると、「ごみは草が生えている所に捨てられやすい」とか、「落書きが1箇所でもあったりすると犯罪の引き金になり、ひいては、それが犯罪の発生しやすい地域になる」とのことであった。また、まちの環境は以前より改善されているという話もあったが、現実としてはごみはかなりあると思う。

市で毎年ゴミゼロ運動を実施しているが、市民にはごみ拾いをやらなくてはならない、やらされているという意識が蔓延していると思う。もっと市民が積極的かつ自発的に取り組める方向にもっていったらよいと思う。

そうすれば「拾うこと＝捨てなくなる」ということにつながるのではないか。

○快適で安全なまちづくりのための整備について（主にハード整備）

市民フォーラム 2 1：市にはお金がないというが、だからといって何もお金をかけなければ何もできない。

市役所北側の土地を利用し、多目的広場のような施設の整備をお願いしたい。

天神山公園桜のオーナー制度実行委：旭市には総合運動公園があるが八日市場にはない。野球場は何箇所かあるけれどもサッカー場がない。サッカーができるような運動公園もない。建物だとお金がかかるので、建物ではなく運動公園であればほとんど芝を張るだけなのでそれほど莫大なお金はかからないと思う。ぜひ造ってもらいたい。

建築連合組合：道路の整備が必要だと思う。それとまちからごみをなくし、きれいに整備を図ること。

不法投棄監視員連会：数年前から、子どもたちをねらった犯罪が多発している。学校への送迎をしなければならないような状態である。犯罪を少しでもなくし、子どもたちや親が安心できるように、安全な通学路の整備を優先していただきたい。

区長会：市役所北の土地は、駐車場を兼ねた多目的広場がよいのではないかと考えている。

豊栄地区では飯倉台を整備して市の人口が増えた。そういう意味では人口対策にも資するため駅周辺などの区画整理をぜひ推進してほしい。

防犯協会：市内では年間約 1,000 件の犯罪が発生している。そのうち 2 割以上は人口が増えた豊栄地区の飯倉で起きている。

今から 8 年ほど前に「つくしんぼの会」という組織を作り飯倉周辺とか下出羽でボランティアの清掃を行っている。なぜそういうボランティアを作ったかという、線路沿いがごみの山だったからである。確かに、まちがきれいになれば犯罪が減るというデータが出ており立証されている。主に飯倉駅周辺を清掃しており、今では相当きれいになったのではないかと自負している。ごみ問題については、市民のモラルの向上をひたすら訴えていくしかない。だまっけてはまちづくりが進まない。市民意識の向上を推進していくことが肝要である。

消防団：現在、子どもたちの安全を図るため、毎日午後 4 時に防災行政無

線放送を行っている。この放送により市民に協力してもらえているので効果的だと思う。財政的に厳しい折、こういう取り組みはお金がかからないので、このようにお金がかからないような施策をどんどん進めていってはどうか。

青年会議所（青木氏）：市内には良い施設がある。ただ駐車場が不足しているような感がある。市役所北の土地は公共の駐車場にしていただけるとよいと思う。

青年会議所（鈴木氏）：市内には宿泊施設があまりない。旭や成田方面に流れてしまい、経済効果が持っていかれてしまう。なんとかしたい。良い宿泊施設があればと思う。多くの人に匝瑳市に来てもらい経済効果を高めたいものである。

○快適で安全なまちづくりのための取り組みについて（主にソフト整備）

青年会議所（鈴木氏）：家族とか子どもたちが大勢集まるイベントを年に1～2回といったように定期的実施してほしい。

青年会議所（青木氏）：来訪者や通行者に匝瑳市はきれいなまちだと思ってもらえるようにしたい。国道沿いなどに植樹をしたり花を植えたりという取り組みができないものか。だいぶまちの印象が変わると思う。

消防団：お金をかけずに良い施策をすることが大事。何をするにしても市民一人ひとりの意識の高揚を図ることである。

例えば、防犯について言えば、空き巣が多いのもっと防災行政無線を活用し市民に注意を投げかければよいと思う。そういう取り組みを行っている間は、犯罪を起こす側にとってもやりづらくさせ、効果があると思う。

防犯協会：高齢者が家の目の前でバックの引ったくりに遭ったという事件が発生している。防犯上、夜間でも明るくすることは策である。

区長会：不法投棄かどうかはわからないが、環境衛生組合の周辺にごみの埋立地がある。そういう所は管理が全くされておらず、埋立地から絞られた水が田んぼに入ってしまう。これはよくない。安全面で心配である。

また、防犯については、市全体で子どもたちを守っていかなければならない。紫のランプを点けた自動車でも市内をくまなく巡回してもらおうとよい。

不法投棄監視員連会：ごみの監視体制を強化し徹底的にやっていただきたい。

建築連合組合：豊栄小学校ではプールや体育館がかなり老朽化しているの

で修繕していただきたい。また、道路の防犯灯や照明灯が少なく非常に暗いので、防犯上もっと設置してほしい。

天神山公園桜のオーナー制度実行委：平和地区では市に要請してもしょうがないだろうということで老人クラブが自分たちでジャンパーそろえて子どもたちの安全を守るため、パトロールを実施している。

各地区も平和地区のようにそういう対応をしてもらえれば多少は違うだろうと思う。

また、現在市内ではパトロール車が走っているが、ただ走っているだけでも効果があると思う。

市民フォーラム21：ゴミゼロの日以外でも社会奉仕活動として年2回ほどごみ拾いや缶拾いを実施している。

また、中央地区では古紙の回収を行っており、毎年20トンほど古紙が集まっている。また、防犯活動も行っているが、これについては平和地区が始まりが早かった。

とにかく今は少子高齢化社会なので、老人クラブは楽しい場づくりを主眼において活動しているところである。これからもこういう活動を積極的に続けたい。

○地域特性を生かした総合的な取組みについて

市民フォーラム21：地域振興協議会が各地区にあるが、なんとなく惰性でやっているような感がある。有効的な活動であるとは思えない。もう少しまとまるように指針のようなものを作ってはどうか。

防犯協会：防犯指導員の数が非常に少ない。各地区とも12、3名で構成している。若い世代で構成しているのなら活発な活動ができるかと思うが、現状ではなかなかスムーズにいかない。これからは他団体と共同して活動しなければ防犯協会だけの防犯活動では限界がある。

さまざまな団体を対象とした懇談会をこれからも実施していただきたい。

青年会議所（鈴木氏）：今までにないものが合併して得られた。例えば、海岸線が広がったこと。このため、匝瑳市の海をもっと外へ向けてPRしたほうがよいのではないか。

また、匝瑳市は植木のまちだから樹木が整然と並ぶ並木道を整備してはどうか。匝瑳市ならではの観光ルートを整備し、そのルートに観光シーズンだけでもよいから市内循環バスを運行させる

ようにしてはどうか。すなわち、他地域から本市へ来ていただけるような市内の環境整備をしていただきたい。

天神山公園桜のオーナー制度実行委：JRと共同して匝瑳市を全国にPRし、「匝瑳」という名前を全国的に知れ渡るような施策を行っていただきたい。

○その他のまちづくりへの提案について

区長会：いろいろ提案があっても予算がないということが問題。議員定数を削減し経費の削減に努め財政健全化を図っていただきたい。議員定数の削減については、先日の市議会議員選挙のときに各方面から話が出ており、区長会から議会に申し入れていただきたいということがあったが、合併後間もないので申入れはしないこととなった。しかし、次回の選挙のときまでには定数削減を検討していただきたいという話がある。

財源確保のためには、工業団地の造成や、区画整理を行い人口増を見込まないとならない。ぜひ進めてもらいたい。

また、医師の確保は重要事項であるので、大学病院でさえ確保は難しいと思うが、ぜひお願いしたいことである。

教育問題においては子どもの安全は市民全員で守るということが肝要である。また、親から子へのしつけの仕方が問題ではないか。しつけを良くやっていただきたいと思う。

青年会議所（青木氏）：財源確保のため、市内循環バスに企業広告を行ってはどうか。また、今、流行っているネーミングライズで収入を得るのはどうか。例えば、八日市場ドームを「〇〇〇〇八日市場ドーム」など企業名を冠したものとし、企業に協力してもらい、市の収入を得てはどうか。そういうことを考えてもよいのではないか。それと、市民の意識改革が必要である。

基本は市がきれいでないとならない。捨てることを止めさせるというより、ごみを拾わせることで捨てたらいけないという意識を植え付けるようにしてはどうか。例えば、八重垣神社祇園祭の後、JTが実施している「拾えばまちが好きになる運動」をタイアップして市民全員で大々的に実施してはどうか。たばこカード導入の際、旧八日市場市がJTに協力してあげたのだから今度は協力してもらおうことでいかがか。とにかく、「拾うこと」でごみを出さなくなると思う。

先日、子どもたちと市の海岸清掃をしたとき、最初にごみを拾わず遊んでばかりいたが、だんだんごみ拾いに夢中になり、ごみ袋

が足りなくなるくらいまで拾うようになった。物事というのはそこまで行き着くまでが大変である。そのためにはイベント性を用いて市民の気持ちを高めることが大事なのではないかと考える。
不法投棄監視員連絡会議：ただ、市民の意識改革と言っても意識改革はできない。ごみの問題であれば、市の職員が率先して拾うことが大事。拾って拾って拾いまくるのである。近隣ではそういう取り組みを行っていないと思うが、近隣に先駆けてやっていただきたい。現在、職員数が多く、削減しようとしているほどなのだからそれぐらいのことはできるだろう。市職員のそういう取り組みや姿勢を3年間続け市民に示すようにすれば、そこではじめて市民の意識も変わってくるものではないかと思う。ぜひこういう姿勢を見せていただきたい。

以上

全体会
ふれあいセンター
(会議室)



団体懇談会協議報告書

(敬称略)

名 称	第4分科会（教育、交流）	会場	ふれあいセンター第3会議室
協議日時	平成18年11月26日 14:00 ～ 16:00		
出席者	及川一好社会教育議長	石渡治雄校長会	子安馨PTA連協会長
	中村子ども会副会長	大木健夫人権擁護員	大野泰生文化財審議会
	小泉泰清八文化会長	川村孝公民館運営議会	鵜澤和子図書館協議会
	石井政好飯高檀林代表	林昭体育協会長	鈴木正夫体育指導委員
	川野多恵子婦人会長	和田昭男国際交流協会	計 14 名
市職員	鈴木勘治教育長	熱田恒雄学校教育課長	鈴木憲一生涯学習課長
	伊橋良夫生涯学習室長	松戸良平公民館長	依知川雅一図書館長
	伊藤七郎給食室長	角田道治秘書課長(司会)	林鉄也主査補(事務局) 9名
協議概要	<p>1 自己紹介 司会者から市職員、団体代表者の順で自己紹介を行った。</p> <p>2 懇談</p> <p>○学校教育の推進について</p> <p>校長会：学校教育だけでなく、家庭教育・地域社会との連携を密にしてい くことが大切である。学校としては、学校週休2日制の導入によ り時間的にゆとりがない状態である。土曜・日曜の行事が多くな っている。英語やIT教育、職業教育等も今までなかった分野が 増えている。土曜があった時の方がよかった。</p> <p>公民館：あいさつのできる子どもが増えてきている。学校での指導体制が よいのではないかと感じる。</p> <p>子ども会：小学校の統廃合はどうなっているのか？学区はどうなるのかに よって、子ども会が変わってくると考える。地域と子どもをつな げることが大切である。親が子どもによって、地域にとけこむこ とができ、孤立しないでふれあい、親同士の話し合える場所がで きる。</p> <p>社教議長：市町は合併したが、地域が合併していない。子ども会で言えば 旧八日市場、旧野栄で別々に活動をしている。10年後に一本化が できればいい程度の話も聞く。今後どうすれば匝瑳市が一つに活動 できるのか思案中である。</p> <p>体育協会：学校週休2日制は地方（田舎）には馴染まない制度である。匝 瑳市は、土曜登校を実施したほうが良い。PCの普及による読み 書きのできない子どもの増加問題。</p> <p>PTA：学校教育に関心のある父親が少ない。学校＝（イコール）母親の 考えが多い。今後は、父親の学校との関わりをどう変えるかが大</p>		

切である。PTA連絡協議会として父親の参加を促したい。

文化財：父親の参加をきちんとさせていくことが大切である。父親参観日、奉仕活動など父親であるべき時の参加者が少ない。親の意識の低さが目立つ。(授業参観中のおしゃべり等)

人権擁護：学校教育だけにまかせるのではなく、地域と家庭と一体となって教育をしていくことが大切である。

図書館：教師に対する親の尊敬がない。教師と保護者と児童生徒の交流を増やすことが大切である。そうすることにより、いじめもなくなるのではないか。

婦人会：学校で体験教室を行う場合、内容によっては地域の協力を得られるので利用すればいい。婦人会としては、協力したい。

体育協会：家庭教育の低下があげられる。また、教師が周囲の反応に怯えて、十分に指導できない状況もある。このような状況をなくすことが大切であると考ええる。

子ども会：学校の教師が忙しい状況ならば、教師の手の足りない部分や時間を指導可能な範囲に対してボランティアで対応するのはどうか、また組織化をしてみてもどうか。

八文化：現在教師は、学校教育だけでなく地域社会との関係で忙しくなっていると考える。教師の教育と雑務を切り分ける、読み書きそろばんだけに絞って指導すればいいと考える。

体育協会：教育委員会が学校内部の仕事を精査して、本来の教師の仕事をさせるようにしたほうがよい。

子ども会：子どもは学校での生活時間が長い、単に教育指導だけでは問題である。

体指連：学校でいうゆとり教育とは何なのか、個性ある教育とは何なのかよくわからない内容である。今後は学校だけに任せ、しつけをするのではなく家庭教育のしつけが重要であると考ええる。

○生涯学習、スポーツ・レクリエーション、地域文化、国際交流、地域間交流について

体育協会：子ども会の役員構成はどうなっているのか。

社教議長：子ども会は各地区であるが、事業実施が旧市町単位になってしまっている。地域性や今までの経過もあるので、10年後までに事業を一緒にすればいいという合併協議会の方針があるので、簡単には統一が図れない。子ども会だけでなく、他の団体にも同一の状況があるのではないかと考える。早く統一を図る必要があると考える。

校長会：合併により行事が増えているのではないかと。旧市町で実施していた事業が残り、追加する形で行事が入ってきている。例えば、野栄のふれあいまつりは残り、よかっぺまつりが追加されているなどがある。整理統合する必要がある。

公民館：生涯学習、趣味の講座などを行いたいと考える市民は多い。公民館活動、寿大学等は参加者が多くなっている。高齢者の学習意欲が高い。

文化財：文化財に対する市の認識、予算が少ない。最初に削減されるのは文化財である。予算を配当して、啓蒙活動を行い市民に文化財の大切さを理解してもらいたい。

文化会：文化会としては一本になったが、活動が別々である。活動の統合ができない。参加形態（団体の集合体と個人の集合体）や基盤（補助金依存と自主運営）が違いすぎる。

飯高檀林：飯高寺をPRしていくことは問題ではないが、駐車場、周辺山林へのゴミの問題等対策を市でも対応してほしい。空き缶等回収機械の設置も考えてほしい。

図書館：協議会員の高齢化（自分を含めて）が進み、現代の要望（子ども、若年層）が判らないため、委員の若返りを実施したい。できればPTAや子ども会の役員など若い方にやっていただき、もっと本を読むように啓発して欲しい。

国際交流：地域には外国人がたくさんいる。外国人児童が不利益にならないように日本語指導協力など学校と連携をして、今後も協力していく。

体指連：軽スポーツの普及活動を今後もしていきたい。

体育協会：現在18競技23団体が加盟している。今後は国、県の政策である統合型地域スポーツクラブを立ち上げることになる。地域振興協議会を利用して設立できれば、コミュニティ活動も活発になる。平成22年に国体があり、弓道大会を開催するので協力をお願いしたい。

子ども会：文化財を観光資源として利用するべきものではないと考える。

PTA：子どもに手本を見せるべき大人のモラルが低下している。モラル向上のためにも何かするべきである。

校長会：子どもたちにも社会（体験）学習をさせるべきであると考え。また、自分に何ができるのか考えてまちづくりに取り組んでほしいと考える。

社教議長：不足していると考えられる生涯学習に必要な施設を整備してほ

しい。特に子どものための拠点施設（青少年施設）がないため整備してほしい。また、各施設を生涯学習利用できるようにしてほしい。同一施設の使用料金（ドーム・アリーナなど）を統一してほしい。

○その他まちづくりへの提案について

体育協会： 市役所駐車場の雑草等は職員が奉仕活動で掃除できないのか。予算がないなら、ないなりの体制を取るべきである。

人権擁護： 健康な老人を作る為の施策をお願いしたい。健康な老人を作ることにより、介護保険給付費等の抑制ができる。

以上



第1分科会(会議室東)



第2分科会(視聴覚室)



第3分科会(会議室西)



第4分科会(第3会議室)